高島善哉／越村信三郎 監修

マルクス経済学体系辞典

杉原四郎／古沢友吉／岡崎栄松　　編集

第 三 出 版

マルクス経済学体系辞典　定価 ¥1,700

1970年9月30日　第1刷発行
1981年8月30日　第5刷発行

監　修　高島善哉
　　越村信三郎
編　集　杉原四郎
　　古沢友吉
　　岡崎栄松
発行者　横溝芳雄

発行所　第三出版(株)　東京都中央区銀座7－12－5
銀星ビル5F
電話　東京(03) 542－1617～8

© 1970　（落丁・乱丁本はお取替えいたします）

〔3033　251261　4426〕

はしがき

マルクスの『資本論』第1巻（1867年）が世にあらわれてからすでに1世紀あまりの歳月が，またレーニンの『帝国主義論』（1917年）が日の目をみるにいたってからすでに半世紀あまりの年月が流れさっている．そして，この間に資本主義の危機的諸様相はいよいよ拡大・深化するとともに，他方，地球の三分の一の地域で社会主義世界の形成・発展という歴史的現実が大きくライムライトをあびるにいたっている．したがって，こんにち世紀のきびしい転換期に立たされている人びとは，好むと好まないとにかかわりなく，ひとしくマルクス＝レーニン主義の思想と学説の総体系について，切実な関心をいだかざるをえないであろう．本書は，そのような人びとが，マルクス経済学を精確に理解し，現代的課題にとりくむうえに活用することができるようにとの意図をもって編まれた．

ところで，マルクス経済学にかんする“辞典”ということであれば，これまでにもいくつかの類書が公けにされている．そして，それらはそれぞれが時代の要請に対応するだけの価値づけをじゅうぶんにあたえられるものであると思う．しかし，それらのなかには，ときによって“辞典”というにはあまりにも生命力の短い，またたんに局部的に活用されるだけで，実質的には万遍なく消化されることのすくない性質のものもままみいだされることがある．本辞典はこのような内省のうえにたって，なによりもまず，つぎのような特色をもつことに留意されている．

(1) これまでの“辞典”にみられがちな大項目・中項目・小項目をアイウエオ順に機械的に羅列するようなことを避け，諸項目をあくまでも体系的に配置して，本辞典自身が独立の単行本ともなりうる形式と内容とを整備した．したがって本書は，ことばの単純な意味での“辞典”ではなく，これはマルクス経済学体系にかんしての

“エンサイクロペディア”的ゆたかさによって基礎づけられている“一般概説書”としての有効性をもつものである.

(2) それでいて本書は，巻頭の詳細な概観的「内容目次」にくわえて，巻末のヨリ綿密に細分・配列されている「事項索引」「人名索引」をつうじて，重要な小項目や基本用語，人名，文献などの所在を容易に探しだせる仕組みをとっているので，“辞典”としての機能に欠けることはない．あわせて，この点の配慮からも，執筆にあたってはできるだけやさしい表現をもって，しかも正確・簡明に解説する努力が一貫してはらわれている.

(3) 本書の内容上の特質は，『資本論』についての解釈学的な知識を提供するのではなく，100年まえに書かれたこの古典が，現代においても，いや現代にいたってますますその創造的活力を発揮しうるような社会科学上の基礎理論であることをしめそうとしたことである．具体的には，本辞典のⅠ「マルクス経済学の形成と発展」ではもっぱら思想的・学史的視点からマルクス経済学の全体系が展望され，Ⅱ「社会発展の歴史」でさらに現実的体制把握の基本姿勢が総体的にしめされるなかで，Ⅲ「資本論」の論理体系にかんする総合的解明が展開されていく．また，Ⅳ「資本論論争史」ではさしあたって現行『資本論』体系の構成にそくしたかたちで主要論争点が整理されているほか，すすんでⅤ「帝国主義論」のなかではレーニン学説体系を中心とする帝国主義の一般的解明がうちだされて，さらにⅥ「国家独占資本主義論」で現代帝国主義の基本的諸特質が統一的に把握される．つづいてのⅦ「現代社会主義経済論」がソ連邦・中国・東欧の現実的諸問題を総体的にとらえていることはいうまでもないが，末尾には学習者の自主的な勉学上の一助として，Ⅷ「マルクス経済学のすすめ」と題する読書案内のページが設けられてある．これと関連して，巻末の外国人名索引には文献索引をつけくわえ，それぞれ原語をつけて，読者の勉学上の参考に資するよう配慮されている.

およそこのような本辞典の全体像をかたちづくるうえで，監修者

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

としての高島はひろく思想体系上の諸論点についての助言をおこない，また越村は主として論理体系上の諸問題についてアドバイザー的役割をになったほか，編集者としての杉原・古沢・岡崎は，古沢を中心として具体的な項目選定とプロットの作成，諸原稿にたいする統一上の若干の手直しなどの諸作業を分担した．しかし，いうまでもなく，本辞典はなによりも執筆者各位の熱心な協力をえて完成したものであり，監修者・編集者一同はこれらの方がたにたいして心からの感謝の念をいだいている．と同時に，本辞典の刊行にあたって，終始，編集者と一体となり，文字どおり推進者としての役割を積極的にはたしてくださった第三出版の瀬藤五郎氏，ならびに背後にあってご配慮いただいた同社横溝芳雄氏のご芳情にたいしても，監修者・編集者一同は心からの敬愛の意を表したいと思う．

1970年8月

監修者
高島善哉／越村信三郎
編集者
杉原四郎 ／ 古沢友吉
岡崎栄松

監修／編集／執筆者　紹介　①生年　②出身校(卒業年)　③現職　④専攻　⑤主著

高島善哉（たかしまぜんや）
①1904　②東京商科大学(1927)　③関東学院大学教授・一橋大学名誉教授　④経済学・社会学　⑤『経済社会学の根本問題』(日本評論社)　『アダム・スミスの市民社会体系』(同上)　『社会科学入門』(岩波書店)

越村信三郎（こしむらしんざぶろう）
①1907　②東京商科大学(1933)　③横浜国立大学名誉教授　④経済原論・経済学史　⑤『図解資本論』(春秋社)　『マルクス主義経済学』(東洋経済新報社)　『恐慌と波動の理論』(春秋社)

杉原四郎（すぎはらしろう）
①1920　②京都大学経済学部(1941)　③甲南大学教授　④経済理論・経済学史　⑤『ミルとマルクス』(ミネルヴァ書房)　『マルクス経済学の形成』(未来社)　『マルクス経済学への道』(同上)

古沢友吉（ふるさわともきち）
①1925　②東京商科大学(1948)　③横浜市立大学教授・商学部長・大学院研究科科長　④経済理論・経済学史　⑤『資本論の展開』(共編著,同文館)　『独占資本論への道』(同上)　『現代資本主義の構造分析』(同上)

岡崎栄松（おかざきえいまつ）
①1930　②東京大学経済学部(1953)　③立命館大学教授　④経済原論　⑤『資本論研究序説』(日本評論社)　宇高編『マルクス経済学』(共著,青林書院新社)　「価値論」(宇佐美他編『マルクス経済学講座』1巻・有斐閣,所収)

稲村勲（いなむらいさお）
①1938　②立命館大学大学院博士課程(1967)　④経済学史　⑤「ジョン・ロックの経済理論とその体系性」(『立命館経済学』18巻4～6号)

藤村幸雄（ふじむらゆきお）
①1933　②東京大学経済学部(1955)　③同志社大学教授　④国際経済論　⑤『帝国主義論』(共著,東京大学出版会)　「ドイツ帝国主義と貿易政策」(同志社大学『社会科学』5・1967)

入江節次郎（いりえせつじろう）
①1921　②東京大学法学部(1944)　③同志社大学教授　④世界経済論　⑤『独占資本イギリスへの道』(ミネルヴァ書房)　『帝国主義論序説』(同上)

奥泉清（おくいずきよし）
①1931　②東北大学大学院博士課程(1963)　③桃山学院大学教授　④国際経済論　⑤「戦後のイギリス国家独占資本主義について」Ⅰ・Ⅱ(『桃山学院大学経済学論集』10巻2・3,11巻1)

玉井龍象（たまいりゅうぞう）
①1928　②一橋大学(1953)　③神奈川大学教授　④理論経済学・経済学史・社会思想史　⑤『ケインズ経済学批判』(訳編,日本評論社)　『現代資本主義論』(共著,筑摩書房)

山中隆次（やまなかたかじ）
①1927　②東京商科大学(1952)　③中央大学教授　④経済学史・経済思想史

大津定美（おおつさだよし）
①1938　②京都大学大学院修士課程(1966)　③竜谷大学専任講師　④理論経済学　⑤「『経済学批判体系』プランと資本蓄積論」(『竜谷大学経済学論集』7巻2)

石原忠男（いしはらただお）
①1917　②中央大学経済学部(1940)　③中央大学教授・商学部長　④経済学(恐慌論)　⑤『恐慌の経済理論』(未来社)　『マルクス主義経済学の基礎』(日本評論社)

井上周八（いのうえしゅうはち）
①1925　②東京商科大学(1952)　③立教大学教授　④経済学(農業経済学)　⑤『地代の理論』(理論社)　『農業経済学の基礎理論』(東明社)

鶴田満彦（つるたみつひこ）
①1934　②東京大学大学院博士課程(1963)　③中央大学教授　④理論経済学　⑤「近代独占理論とマルクス経済学」(『経済学季報』12巻3・4)　「独占資本主義論の方法」(『商学論纂』8巻3)

岡稔（おかみのる）
①1924　②東京商科大学(1947)　③元一橋大教授　④社会主義経済論　⑤『計画経済論序説』(岩波書店)　『社会主義経済論』(共著,筑摩書房) 1973,没

山内一男（やまのうちかずお）
①1915　②東京大学法学部(1940)　③法政大学教授　④社会主義経済論(とくに中国)　⑤『社会主義経済論』(共著,筑摩書房)

佐藤経明（さとうつねあき）
①1925　②東京大学経済学部(1952)　③横浜市立大学教授　④社会主義経済論　⑤オタ・シーク『社会主義における計画と市場』(訳書,筑摩書房・近刊)　『ソ連・東欧諸国の経済成長と経済改革』(編著,アジア経済研究所・近刊)

凡　　例

(1) この辞典は，3つの項目により構成されている．大項目(例：Ⅰマルクス経済学の形成と発展)，中項目(例：§1初期マルクス——哲学から経済学へ)，小項目(例：マルクス主義の3源泉)がそれである(ただし内容に応じてⅡとⅧは中項目の区分をはぶいた)．各項目は，五十音順による羅列ではなく，体系的に配列されている．

(2) Ⅲ資本論とⅤ帝国主義論では，〔　〕の小見出しをつけて，原典『資本論』，『帝国主義論』にそくした編成をしめし，原典学習の参考とした．

(3) 重要用語は太字でしめし，また→印で関連項目をしめした．

(4) 巻末に，用語の字典としての機能をもはたすように，詳細な人名・事項索引をつけた．人名にはできるかぎり生没年をつけ，とくに外国人には文献索引を併記して，人名・書名の原語をかかげた．

執筆担当

〔項　目〕	〔執筆者〕
Ⅰ §1	山中隆次
	(協力) 杉原四郎
§2	大津定美
	(協力) 杉原四郎
§3～§5	杉原四郎
Ⅱ	高島善哉
Ⅲ §1	古沢友吉
§2	越村信三郎
§3	石原忠男
§4	越村信三郎
§5～§6	古沢友吉
§7	井上周八
Ⅲ §8	鶴田満彦
Ⅳ §1～§6	岡崎栄松
§3～§5	(協力) 稲村　勲
Ⅴ §1	古沢友吉
§2	藤村幸雄
§3	入江節次郎
Ⅵ §1～§2	奥泉　清
§3	玉井龍象
Ⅶ §1	岡　稔
§2	山内一男
§3	佐藤経明
Ⅷ	古沢友吉

目　　次

Ⅰ　マルクス経済学の形成と発展

§1　初期マルクス
——哲学から経済学へ

マルクス主義の3源泉…… 3
ドイツ古典哲学…… 3
青年ヘーゲル派…… 4
『ライン新聞』時代…… 5
『独仏年誌』発刊…… 6
イギリス古典経済学…… 7
『経済学・哲学草稿』 …… 8
労働疎外論…… 8
フランス社会主義…… 9
唯物史観の展開……10
『哲学の貧困』……11
「賃労働と資本」……12

§2　中期マルクス
——経済学批判体系

中期マルクス……12
『経済学批判要綱』……13
『要綱』と『資本論』……14
経済学批判体系プラン……15
プランの展開……16

§3　後期マルクス
——『資本論』体系

『資本論』の方法＝体系……19
狭義の経済学・広義の経済学 ……20
資本主義経済の基本法則……21

§4　マルクス経済学の発展

修正主義論争から帝国主義論へ…23
ソ連マルクス経済学の展開……24
現代マルクス経済学……25

§5　日本のマルクス経済学

マルクス経済学の導入……26
日本資本主義論争……27
戦後研究の新展開……28

Ⅱ　社会発展の歴史

発展段階論……31
社会体制……31
社会構成体……32
原始共産制……33
アジア的生産様式……34
奴隷制社会……35
封建制社会……36
資本主義……37
社会主義……39
共産主義……40
周辺革命……41

Ⅲ 資 本 論

§1 マルクス経済学の基礎

〔マルクス経済学の対象と方法〕
生産手段……43
生産力……44
生産関係……44
生産様式……45
史的唯物論(唯物史観)……46
抽象的なもの,具体的なもの ……47
論理的なもの,歴史的なもの ……49
〔資本主義経済社会の成立〕
本源的蓄積……50
単純協業……51
マニュファクチャー……52
機械制大工業……54

§2 商品,貨幣

〔商　品〕
商品,商品経済 ……56
商品生産,商品流通 ……57
使用価値,交換価値,価値……58
具体的有用労働,抽象的
人間労働(労働の二重性)……59
簡単労働,複雑労働 ……59
個別的価値,社会的価値 ……60
私的労働,社会的労働 ……60
労働の生産性(労働の生産力)……61
等価交換,不等価交換 ……61
価値法則……62
〔貨　幣〕
価値形態……63
貨幣,貨幣商品 ……64
価値尺度……65
流通手段……65
鋳貨,補助貨,紙幣……66
支払手段……67
蓄蔵貨幣(退蔵貨幣)……67
世界貨幣……68
貨幣流通の法則……68
紙幣流通の法則……69
商品の変態……70
価格……70

§3 資本,剰余価値

〔資本,賃労働〕
資本(産業資本)Ⅰ……71
資本(産業資本)Ⅱ……71
資本の一般的範式……72
賃労働(労働力の売買)……72
労働力の価値……73
労働の搾取……74
労働日……75
〔剰余価値〕
労働過程,価値形成・価値増
殖過程……75
生産過程,流通過程 ……76
生産的消費,個人的消費 ……76
生産的労働,不生産的労働 ……77
必要労働(支払労働),剰余
労働(不払労働)……77
不変資本,可変資本 ……78
固定資本,流動資本 ……79
剰余価値……79
剰余価値率,剰余価値年率 ……80
絶対的剰余価値,相対的剰
余価値……80

剰余価値の法則……81
生産物価値，価値生産物 ……82
特別剰余価値……82
〔賃金，失業〕
賃　金……83
時間賃金，個数賃金 ……84
名目賃金，実質賃金 ……85
相対的過剰人口（産業予備軍）……85
窮乏化法則……86

§4　回転，再生産，蓄積

〔資本の循環・回転〕
資本の変態……87
貨幣資本の循環……88
生産資本の循環……89
商品資本の循環……90
流通費……90
資本の回転……92
資本の生産期間，流通期間 ……92
〔資本の再生産，蓄積〕
再生産，再生産表式 ……93
単純再生産表式……95
拡大再生産表式……97
資本の有機的構成……98
資本主義的蓄積の一般的法則……99

§5　利　　潤

〔平均利潤〕
費用価格，利潤 …… 100
利潤率…… 101
平均利潤，平均利潤率 …… 102
生産価格…… 103
平均利潤の法則…… 104
超過利潤…… 105
〔利潤率の傾向的低下の法則〕
利潤率の傾向的低下…… 106
利潤率の傾向的低下に反作用する諸要因…… 107
〔商業利潤〕
商業資本…… 109
商業利潤…… 110
商業労働…… 112

§6　利子，信用

〔利　　子〕
利子生み資本，利子 …… 113
利子と企業者利得…… 114
利子率…… 114
〔信　　用〕
信用の諸形態…… 115
商業信用…… 116
銀行信用…… 117
銀行信用による商業信用の代位…… 119
銀行の役割…… 120
銀行業務…… 122
銀行利潤，銀行利潤率 …… 123
資本主義的生産における信用の役割…… 124

§7　地　　代

〔封建的地代〕
土地所有…… 125
農業革命…… 125
本源的地代形態…… 126
労働地代…… 126
生産物地代（現物地代）…… 127
貨幣地代…… 127
分益農制…… 127
農民的分割地所有…… 127
〔資本主義的地代〕
収穫逓減の法則…… 128

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

差額地代…… 128
絶対地代…… 132
独占地代…… 132
建築地地代…… 133
鉱山地代…… 133
土地価格…… 133
土地資本…… 133
三位一体的公式…… 134

§8　恐　　慌

〔恐慌の理論〕
資本主義的生産の基本的矛盾…… 135
資本主義的生産の無政府性…… 136
過少消費，過剰生産 …… 136
生産部門間の不均衡…… 137
不均等発展と不均衡…… 138
信用と恐慌…… 139
世界市場と恐慌…… 140
産業循環…… 140
恐慌と諸階級…… 141

〔恐慌の諸形態〕
貨幣恐慌…… 142
金融恐慌…… 143
取引所恐慌…… 144
農業恐慌…… 145
世界恐慌…… 145

Ⅳ 資本論論争史

§1　プラン論争

変更説と不変説…… 147
戦後論争の展開…… 148

§2　価値論争

ベーム＝ヒルファディング論争…… 149
「戦後派」の価値論 …… 150
宇野説とその批判…… 151

§3　窮乏化論争

ベルンシュタイン＝カウツキー論争…… 153
「生活水準低下」説 …… 154
「労働力の価値以下」説 …… 155
窮乏化論の新展開…… 156

§4　再生産＝恐慌論争

不比例説と過少消費説…… 157
レーニンの恐慌論…… 157
ローザの過少消費説…… 158
福田＝河上論争とその批判…… 158
恐慌論争の展開…… 159

§5　生産価格論争

価値と生産価格との「矛盾」… 161
宇野価値論…… 162
転形問題…… 164

§6　地代論争

地代論争の展開…… 164
向坂地代論…… 165
山田・リュビーモフ説 …… 166
戦後の地代論争…… 166

V 帝国主義論

§1 帝国主義の国内体制

〔生産の集積と独占〕
独占の形成…… 169
株式会社…… 170
株式会社の経営権…… 171
株式の分散化＝資本の民主化という幻想…… 171
株式価格…… 172
創業(者)利得と擬制資本…… 172
カルテル…… 174
シンジケート…… 175
トラスト…… 175
コンビネーション…… 176
コンツェルン…… 177
独占利潤・独占価格 …… 177
独占と競争…… 178
〔銀行資本の集積・集中〕
独占と信用…… 179
銀行の新しい役割…… 179
銀行資本の集中過程…… 180
銀行独占と産業独占との結合…… 181
銀行と創業活動…… 181
銀行と産業との人的結合…… 182
〔金融資本の支配体制〕
金融資本…… 182
金融寡頭制…… 183
参与制度…… 184
金利生活者…… 184
労働貴族…… 185
インフレーション…… 185
デフレーション…… 188

§2 帝国主義の世界体制

〔資本輸出と世界市場の分割〕
世界市場…… 190
外国貿易…… 190
為替相場…… 192
資本輸出…… 193
国際的独占体…… 194
貿易政策…… 194
植民政策…… 195
〔帝国主義戦争〕
帝国主義戦争の必然性…… 196
戦争と革命(一国社会主義革命) …… 197
民族の独立・解放 …… 197
軍需経済…… 198
戦争経済…… 199

§3 資本主義の特殊な段階としての帝国主義

〔帝国主義の歴史的「位置」〕
産業資本主義と帝国主義…… 199
重工業資本主義と資本輸出…… 200
〔帝国主義の歴史的「地位」〕
帝国主義の段階的総括規定…… 202
資本主義の独占段階…… 202
寄生的な腐朽化しつつある資本主義…… 203
国によっての発展の不均等性の激化…… 205
死滅しつつある資本主義…… 206
〔帝国主義論の諸潮流〕
「帝国主義論」系譜への

アプローチ…… 206
超帝国主義論…… 207
「組織された資本主義」論 …… 208
国家資本主義トラスト論…… 209
〔帝国主義の政治的イデオロギー〕
軍国主義…… 210
ファシズム…… 211

Ⅵ 国家独占資本主義論

§1 資本主義の全般的危機

全般的危機の展開・本質 …… 215
全般的危機の第1段階…… 217
全般的危機の第2段階…… 219

§2 国家独占資本主義の基本論理・構造

国家独占資本主義の本質…… 221
国家独占資本主義の世界体制… 224
国家独占資本主義の国内体制… 226

§3 国家独占資本主義の諸問題

管理通貨体制…… 232
経済恐慌…… 237
国家の経済的役割…… 240
技術革新…… 242
国際的経済統合…… 243
低開発国の経済開発／工業化…… 247
社会主義圏との経済競争…… 248
労働運動と民主主義運動の進展…… 252
民族解放運動の展開…… 254

§4 現代資本主義論

現代資本主義論の概観…… 257
窮乏化論(所得革命論)…… 257
恐慌と戦争経済論…… 258
資本の蓄積機構と支配構造の変化…… 259
技術革新と価格構造…… 260
国家独占資本主義論…… 261

Ⅶ 現代社会主義経済論

§1 ソ連邦の社会主義経済

社会主義への過渡期…… 263
戦時共産主義…… 264
新経済政策(ネップ)…… 264
社会主義国有化…… 265
社会主義工業化…… 266
農業集団化…… 267
国民経済計画管理制度…… 268
バランス方法…… 269
労働に応じた分配…… 270
取引税…… 272
ホズラスチョート…… 273
利潤方式…… 274
経済的サイバネティックス…… 276
経済競争…… 276
共産主義への移行…… 277

§2　中国の社会主義経済

総路線…… 278
農業基礎論…… 279
大躍進…… 280
人民公社…… 282
両参一改三結合…… 283
公私合営…… 284
調整政策…… 286
自力更生…… 287
革命委員会…… 288

§3　東欧の社会主義経済

人民民主主義革命…… 289
労働者評議会…… 291
外延的発展・内包的発展 …… 292
コメコン…… 294
社会主義国際分業…… 295
貿易の収益性…… 297
振替可能ルーブル…… 298
誘導市場モデル…… 299

Ⅷ　マルクス経済学のすすめ
——学習者のための読書案内

マルクス＝エンゲルスの主要著作…… 301
マルクス経済学の形成と発展… 302
社会発展の歴史…… 305
『資本論』 …… 306
『資本論』論争史 …… 308
レーニンの主要著作…… 309
帝国主義論…… 311
国家独占資本主義論…… 313
現代社会主義経済論…… 320

人名索引(325)
文献索引(〃)
事項索引(341)

マルクス経済学体系辞典

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.c